

ネットワーク資料保存 第134号 2024年3月

日本図書館協会
資料保存委員会

<視聴報告>

第34回国立国会図書館保存フォーラム「フィルムと写真—劣化のしくみと保存対策—」

きのしたこゆき
木下小雪

(東京都立中央図書館)

国立国会図書館主催の保存フォーラムをオンライン配信にて視聴しました。今年度は、「フィルムと写真—劣化のしくみと保存対策—」をテーマとし、様々な立場の専門家による報告が行われました。

報告1「東京都写真美術館における写真の保存」/山口孝子氏(東京都写真美術館保存科学専門員)

まず、美術館の作業室と収蔵庫内の映像を用いて実際の保存環境の説明がありました。支持体がガラスの写真は保存箱との間に一枚紙をかませるなど、職員が作業しやすく、かつ写真を安全に取り扱うことができるというような工夫が感じられました。次に、写真の構造とそれを考慮した保存に関する注意点の解説がありました。私の写真についての知識が少なかったため、写真が結合剤や支持体、画像材料等によって構成されていることを初めて知り、劣化は複数の要因が絡み合って起こ

ることを学びました。保存の取組について、特に印象に残った点は、JIS規格に依存するのではなく、保存環境について独自に取り決めていたことです。最後に、TACベースフィルムに関連した実験の成果について、酢酸臭のあるフィルムに対しては、包材の変更や吸着剤の使用で劣化抑制の効果があるとの報告がありました。

報告2「東京大学経済学図書館におけるマイクロフィルムの保存対策と保存環境について」/小島浩之氏(東京大学大学院経済学研究科講師、東京大学経済学部資料室室長代理)

まず、東京大学における図書館の組織についてとマイクロフィルムの基礎知識に関する説明がありました。特に印象に残ったのは、フィルムは各国の気候状況によって調整されているため、冷涼で低湿の地域で作られたマイクロフィルムは、日本で取り扱おうと固着する可能性が高くなるということです。次に、東京大学経済学図書館の施設改修後に発見されたマイクロフィルムの劣化の経緯とその対応に関する解説、そして現在行っているJIS規格を考慮した現実的に可能な環境管理の取組の紹介がありました。管理環境の変化が劣化の進行へ影響したと考えられることから、環境変化を行う際の注意を促していました。最後に過去に撮影されたマイクロフィルムでも現在の技術で鮮明に見えるようになることもあるため、図書館では保存もしくは複製をして残していくべきだとの説明がありました。

CONTENTS

<視聴報告> 第34回国立国会図書館保存フォーラム

「フィルムと写真—劣化のしくみと保存対策—」 木下小雪 1

<参加報告> 日本図書館協会資料保存委員会<資料保存セミナー>

明日からできる「資料保存の基礎技術」 矢口琴衣 2

<出展報告> 第25回図書館総合展出展記 川原淳子 4

資料紹介『カビ対策パーフェクトセミナー』 柿原直子 7

資料紹介『100年くらい前の本づくり』(書物学第24巻) 田崎淳子 8

コラム 図書館が被災した時 9

委員会の動き 9

報告 3 「写真の支持体と TAC ベースフィルムの劣化について」/梅本眞氏(フジフィルムスクエア・コンシェルジュ)

まず、現在の写真の定義と近いものが開発された時からの変遷について解説がありました。画質改良を目的とし支持体が紙から水分を含んでも滲まないガラスへ変更されたり、ガラスだとかさばるため紙に戻したりという流れを経て、最終的にプラスチックへ変遷した経緯を知り、写真の構造について理解を深めることができました。報告の後半では、TAC ベースフィルムの劣化についてピネガーシンドロームの原理の解説、劣化診断に用いられる A-D ストリップやパッシブインジケータ等の紹介、劣化防止に用いられる SIGLO やモレキュラーシープ等の紹介がありました。最後には、保存条件について Image Permanence Institute (IPI) のピネガーシンドローム時間曲線図を用いて低温低湿の重要性の説明及び、JIS 規格の解説があり、発生後の救済は難しいため、発生しないような取組や複製を作成していくような取組が必要と説明していました。

報告 4 「国立国会図書館におけるマイクロフィルム劣化対策の現況」/吉井怜奈氏(国立国会図書館収集書誌部資料保存課主査兼保存企画係長)

まず、国立国会図書館におけるマイクロフィルムの取扱いについて説明がありました。原本の保存と利用促進を目的としているだけではなく、海外のマイクロ化された官庁資料と交換するためにもマイクロ化を行っていたということを知りました。次に、国立国会図書館で起きたマイクロフィルムの劣化について説明がありました。2000 年代に実施された資料移転の際に発覚した劣化と同様の劣化が移転対象外のマイクロフィルムでも見られたことをきっかけに、劣化対策を当初の計画を変更しつつ約 10 年かけて完了したとのこと。その後、現在の取組の紹介として、長期保存対策方針と 5 か年ごとの実施計画の作成、実際に行っている調査や環境改善の説明がありました。最後に、それぞれの図書館によって使命や状況が異なるため、組織に応じた対策を単発ではなく継続して行うのが良いのではないかと提言がありました。

普段、写真資料やフィルム資料に触れる機会が少ないため、今回のフォーラムでは初めて聞く内容が多くありました。フォーラムを通して、フィルム資料等の保存対策では温湿度や分離・別置など様々なことを考慮しなければならず、理想の保存対策が叶わないのであれば、実現可能な範囲での最善策を考え継続して実施することの重要性を

学びました。フォーラム視聴後は自館のフィルム資料等の劣化対策がどうなっているのかを知るために、各部署に質問をし、図書館資料とその保存への理解を深める良い機会となりました。

<参加報告>

日本図書館協会資料保存委員会
<資料保存セミナー> ~明日からできる「資料保存の基礎技術」~

矢口琴衣
(長野県立美術館アートライブラリー)

2024 年 2 月 19 日 13 時から 17 時まで、日本図書館協会 2 階研修室にて、資料保存セミナー「明日からできる「資料保存の基礎技術」」が開催されました。

このセミナーの内容は、

- ①図書館資料の保存・修理とは－基本的な考え方と知識・技術－(実習付き)
- ②資料の災害対策と水濡れ資料の処置(実習付き)

2 項目で、講師は資料保存委員会の眞野節雄氏、佐々木紫乃氏のお二方で、実習付きの参加者が 20 名、聴講のみが 5 名でした。

今回は、図書館資料の保存・修理のほか、水濡れ資料の処置についての実習があったので、ハンドタオル、タオルの各 1 枚が当日の持ち物として連絡がありました。セミナーが始まる前に、持参したハンドタオルを予め濡らして硬く絞っておく、という案内があったので、ハンドタオルの準備をしました。

セミナー開始後は、図書館資料の保存・修理についての講義から始まりました。



利用のための資料保存の 5 つの方策は「防ぐ」「点検する」「治す」「取り替える」「捨てる」であって、「治す」は、一番最後の選択肢であると解説が

ありました。

もし、修理するのであれば、資料に負担をかけず柔らかく仕上げるのだそうです。でんぶん糊や和紙を使うことが次の修理のためによいとのことですが、強く硬く治すことは逆に資料を壊れやすくしてしまうというお話でした。壊れなくするために強固にすれば良いわけではなく、柔らかく仕上げるのが本にも負担をかけることなく、更に次の修理のためにもなる、とのことでした。その時々修理しか考えていなかったと、恥ずかしくなりました。

また、補修テープは便利ではありますが再補修が難しく、場所によってははがれやすい欠点があるというお話を伺いました。長期保存を考えるのであれば補修テープは利用せず、可逆性を考えて、でんぶん糊や和紙といった安全な材料を使用して修理の記録を取る事など、修復の基本(IFLA)の説明を交えながら、解説をしてくださいました。

そして、修理は絶対ではなく、“利用に耐えうる最小限の修理”が基本であることをふまえて、利用頻度や価値などから判断し、時には治さないで保存することもあると、実際の本を見せていただきながらの説明がありました。当館の図書でも使用頻度が少ないけれども経年劣化で壊れた本の修理に悩み修理保留にしていた本を思い出し、本を治さないで保管するという考え方もあっていいという眞野氏のお話に、目からウロコでした。

修理のための基本的な考え方と技術の講義が一通り終了し、いよいよ実習に移ります。

実習の1つ目は、ページ破れがあったときの和紙による補修の仕方、2つ目は、ページの抜け落ちがあったときの処置方法です。



1つ目の実習の、ページ破れがあったときの和紙による補修は、配布された和紙とでんぶん糊とを使って行いました。ページ破れの補修については以下の工程で行いました。

- ・和紙をちぎる
- ・破れに糊を塗る
- ・和紙に糊を塗る
- ・和紙を貼る
- ・余分な糊を吸い取る

- ・乾かす
- ・はみ出した部分を切る

破れたページの大きさと紙の目に注意し、和紙を破れの大きさに合わせて水を含ませた筆で和紙をなぞって和紙のくいさきを作るようにちぎりました。ページ破れの重なり部分にも糊を少し塗ったあと、破れ部分に乗せる和紙に糊を中央から放射状に糊を塗り、ページ破れの上に貼りました。余分な糊を取り、乾かしたあと和紙のはみ出した部分を切り取るのですが、はさみやカッターを使用せず、紙ヤスリを筒状にしたものでそぎ落としたことにとっても感動しました。

2つ目の実習のページ抜け落ちがあったときの処置方法の手順について以下です。

- ・抜け落ちたページのノドに細く糊を塗る
- ・ページを差し込む
- ・飛び出した部分を切る

ここでも、はみ出した部分に紙ヤスリを筒状にしたもので飛び出た部分をそぎ落としたので、和紙だけでなく(今回は雑誌の紙の厚さ)、雑誌でも紙ヤスリでそぎ落とせることがわかり今後も当室でも作るどころからやってみようと思いました。



休憩をはさみ、佐々木紫乃氏による資料の災害対策と水濡れ資料の処置の講義です。

はじめに、災害が起きないうちの「事前対策」が非常に大切です。それは、予防のための措置、マニュアル作成や万が一災害が起きたときの必要資材等の準備等が減災に繋がるからです。

他にも、勤務先の実例や、事前に準備していた材料や道具に追加したものなど、実際に困ったことが起きたり、作業する中で気づいたことなどをお話してくださいました。この講義から、当室も、水害対策はまだ行っていませんので、これから準備を進めていこうと思いました。

いよいよ、水濡れ資料の処置の講義です。

近年、梅雨による水害や台風による水害、線状降水帯による水害が増えてきています。この水害により、博物館はもとより図書館でも水損資料や図書が多くなっていることも事実です。

私も、博物館でのレスキュー活動に参加したことがあるのですが、資料レスキューの勝手がわからないので担当者にイチからジューまで聞いていました。その時に、「これでは、自館で何かあっても右往左往してしまうな」と思いました。

さて、実習には、塗工紙が途中で挟まっている雑誌を使いました。それを、ビチョビチョになるまで水に浸したのを見た瞬間に、まず開いていけるのか、という不安に駆られました。B5 サイズを4等分した小さな状態でしたが、それが実際の冊子の大きさで、何百冊と出てきてしまったらと考えると、本当に水損資料になるのだけは避けたい、と思いました。



作業工程については、以下の順番です。

- ・乾いたタオルの上にビチョビチョの雑誌を置き、よく水を拭きとる
- ・塗工紙のページを開けて吸水紙を入れ、水分を吸い取る。
- ・塗工紙以外の10ページ分ほどを束にしてめくって吸水紙を入れる。
- ・少し置いてから、吸水紙を抜いて、吸水していない部分に紙をずらしていく。
- ・上の作業を続け、紙の面すべてに吸水したら、新しい吸水紙を替える。吸水した紙は乾かして再利用する。

以上の作業を行いました。雑誌を小さくした大きさでも思った以上に処置に苦戦しました。佐々木氏の説明の中で、水分が多いとページがはがれにくく、水分が少なくなるとはがれやすくなる。とありましたが、そうなるまでも結構吸水紙をはさみこむ作業があり、またそれに慣れるまでも時間がかかることから、水害が起きて被害が最小限で済むように事前準備の大切さを改めて知った実習にもなりました。

講義、実習終了後、質疑応答があり、セミナーが終了しました。

今回の講義では、図書資料の保存や修理についての内容から始まり、実物の本の状態の補修に関すること、スライドでの解説、事前の災害に対する備えや確認の解説がありました。

実習では、本当に明日からできそうな和紙とでんぷん糊での補修の仕方やページはずれの処置の

仕方、水濡れ資料の手当を学びました。

本にとって最良の保存方法を考えながら必要な修理をし、また、水損資料の処置についても室内で情報を共有しつつ、水害対策を講じていこうと思ったセミナーになりました。

<資料保存セミナーアンケート結果>

23名の方から回答をいただいた。参加者は大学図書館勤務の方が多かった。

満足度は、『非常に満足』18名、『満足』5名、『やや不満足』と『不満足』は0名だった。

「説明がわかりやすかった」「帰ったらすぐに減災対策に取り組みたい」「実習の時間がもう少し長いとよかった」「地方でもこのようなセミナーや研修があるとよい」といったご意見・ご感想を頂戴した。今後取り上げて欲しいテーマとしては、「修理」「カビ・虫」「製本」「マイクロフィルムやデジタル資料の保存」「保存箱の作成」などがあげられた。

資料保存委員会では、回答者の声を参考に今後もこうしたセミナーの開催を計画していきたいと考えている。
(編集担当)

第25回図書館総合展出展記

かわはらじゅんこ
川原淳子

(日本アスペクトコア(株) /
日本図書館協会資料保存委員会)

第25回図書館総合展(以下総合展)が、4年ぶりの現地開催(2023年10月24、25日:於パシフィコ横浜)とオンライン開催(2023年10月26日~11月15日)の2本立てで行われ、筆者がメンバーとして参加している有志のグループ「修理系司書の集い」は昨年度に引き続き出展した。

1. オンラインポスターセッション



<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/159>

出展タイトルは「修理する？しない？ -資料保存の現場見える化アンケート第2弾！-」。

前回の出展¹⁾では、資料保存の現場に関する幅広いアンケートを行い様々な回答を頂戴した。その中で、修理をするかしないか迷うことがある、他館ではどうしているのか知りたい、というご意見があった。多くの図書館では詳細な保存方針や修理マニュアルがなく、現場で作業する人に判断が任されているため不安が生じることがあると思われる。今回はそういった悩みに対して参考になるよう修理に関するアンケートを実施した。

設問は全18問、破れ系・外れ系・劣化系・汚れ系・カビ系の5部門に分かれている。それぞれの設問について、修理する／しないを答えていただき、部門ごとに設けた自由記述欄に、なぜ修理する／しないを選んだのか、するとしたらどのような作業が考えられるか書いていただいた。回答数は44件、多くの方が非常に丁寧に記述してくださっている。最終結果を公開しているのでぜひご一読され、考え方や具体的な作業の参考にしていただきたい。

設問とその結果をひとつご紹介しよう。「破れ系-2 今話題の小説文庫本、十数ページに渡り破れがある。破れは文字にもかかっている。自館にも複本が1冊あり、連携している同じ市内では39冊所蔵、予約待ちは900人。なお、電子書籍も刊行されている。」

ページが破れていると言ってもどこがどの程度破れているのか、長期に渡り保管する本なのか、複本はあるのか、買い替えることはできるのかといった状況の違いによって判断の差が出るだろう。回答される方がそういった様々な背景に思いを巡らしていただくことが目的の一つであり、そのためかなり作りこんだ設問となっている。回答に時間がかかり回答者には負担をおかけしたが、反面、図書館あるあるで楽しめたという感想も頂戴している。ひとりで悶々と取り組むよりも、職場でわいわいと意見を交わしながら考えていただくとういのかもめない。私達メンバーも設問作成及び想定される回答について検討している際、多くの意見を出し合いとても有意義かつ楽しい時間を持つことができた。

なお、上記の設問の回答は、修理する21件／修理しない22件／無回答1件であり、判断が分かれた。自由記述の内容を見ると、修理するとした方は「よく使われる資料だから」「自館で修理可能なら」「破れの修理は短時間・低コストでできるので」「公共の財産であるので」等の理由を書かれている。逆に修理しないを選択された方からは「複本や電子本が利用できるの」「修理にかかる手間や時間を考えて」「買い替えを検討」といった意見が出た。

どちらが正解ということはない。同じ破損資料であっても、館内で行っている修理業務の内容や

資料購入予算、保管年限など図書館それぞれの状況で判断は変わる。他の方の記述を読んで新しい視点や解決方法を知っていただき少しでも今後の業務のお役に立つことが目的である。

多くの方が詳細に自由記述欄に記載してくださっているので、修理する／しないの回答とも突き合わせて分析し、今年の総合展で発表する予定でいる。

2. サテライト会場

総合展には、サテライト会場という参加方法があり、今回私達は初めてその運営に挑戦した。総合展のサイトから引用させていただくと「“会期中、図書館関係者の来訪を歓迎してくれる” 図書館・施設・企業を、サテライト会場と名付けて設定」というものである。「修理系司書の集い」の活動は、資料保存に関わる人の情報交換の場を作ることを目的としている。オンラインでのアンケート調査は場所や時間の制限がないぶん閲覧数も多く広く関心を持った方に見ていただけるメリットがあるが、現場で働く方達とリアルで会って意見交換をしてみたいとも考えていたからだ。

「リアル！修理系司書の集い～和紙と正麩糊で破れ補修実験、水濡れ資料吸水体験、小型活版印刷機で葉印刷体験、本の修理相談会」
<https://www.libraryfair.jp/satellite/2023/78>

メンバーのうちの2名が参加している「図書館資料保存ワークショップ番外編」(以下番外編)²⁾の活動拠点である京都のアトリエを会場として、2023年11月4日に開催した。上記番外編からも4名の方が当日スタッフとして参加してくれた。内容としては以下のものを用意。

- (1) 小型活版印刷機 ADANA での葉作成体験
- (2) 糊と和紙を使った本の破れ修理体験
- (3) 水濡れ本の吸水体験
- (4) 紫外線による資料の退色サンプル展示
- (5) 資料保存関係図書展示
- (6) 2022・2023 年度ポスターセッション掲示

この他に、お茶菓子を用意してスタッフや参加者同士がお喋りできる場もセッティングした。

11月の行楽シーズンの連休中日、どれだけの方が足を運んでくださるかまったく見当がつかなかったが、4時間という短い時間に計20名の参加者があった。東京や福岡といった遠方から来られた方もいらした。メンバーにつながるのある方の他、総合展のサイトを見て来てくださった初対面の方も複数いて嬉しい限りであった。



1の活版体験は、京都活版印刷所³⁾にご協力いただき、「I cannot live without books」と組んだ活字を小型活版印刷機で印刷する体験で、印刷したものは穴を開けて紐を通し葉としてお持ち帰りいただいた。ささやかながらお越しくくださった方へのプレゼントである。

2の破れ修理体験は、『眞野先生。本が傷んだら修理するだけじゃダメってホント?』⁴⁾で紹介されている<ページの補修の流れ>を再現したもので、薄く溶いた糊を用いて破れた個所に極薄の和紙を貼り板に挟んでプレス。しっかりと破れの補修ができていることを実体験していただいた。糊の濃さや和紙の感触、自然な仕上がりを実際に経験していただくことで長く保存する資料にはぜひ糊&和紙での補修をお願いしたいと思い体験に組み込んだ。

3の水濡れ資料の吸水体験は、東京都立図書館のテキスト「水に濡れた資料の手当て」⁵⁾を参考にして自然空気乾燥法をご紹介した。水に濡れた紙はとても脆弱なこと、紙を挟み込んで吸水していく作業は大変手間がかかることを理解していただ

いた上で、最も重要なことは濡らさないこと、予防であるとお伝えした。

4~6は、体験を待つ間に見ていただけるよう掲示し、手の空いたスタッフが説明するようにしたが、参加された方はどれも関心を持って見てくださり、そこから参加者同士での会話にもつながっていった。情報共有や意見交換という私達が目指す場がそこに生まれていて大変嬉しい光景であった。

3. これからのこと

いずれは修理系司書達が集える場をネット上に作るべく、今後も活動が続けていきます。ひとまずは2024年度の図書館総合展で、修理する/しないアンケートの分析を報告する予定ですのでご覧いただければ幸いです。アドバイスやご意見も大歓迎です。

修理系司書の集い「資料保存の現場見える化アンケート」<https://www.libraryfair.jp/poster/2022/86>

2) 図書館資料保存ワークショップ番外編 <https://letterpresslabo.com/author/kulpcws/>

3) 京都活版印刷所 <https://cappan.co.jp/kyotopress>

4) 『眞野先生。本が傷んだら修理するだけじゃダメってホント? ~ストーリーでわかる図書館の資料保全の考え方~』(DB ジャパン, 2022.9)

5) 「水に濡れた資料の手当て~自然空気乾燥法~」
https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/uploads/11_mizunure2020.pdf

『カビ対策パーフェクトセミナー』



- 発行：明治クリックス
- 2023
- 31 頁
- 1,000 円+税

●主な項目

- ・慌ててやっではいけないこと
- ・カビの原因の特定
- ・カビを発生させない環境づくり
- ・点検の基本
- ・乾式・湿式クリーニングの手順
- ・必要な道具・装備等

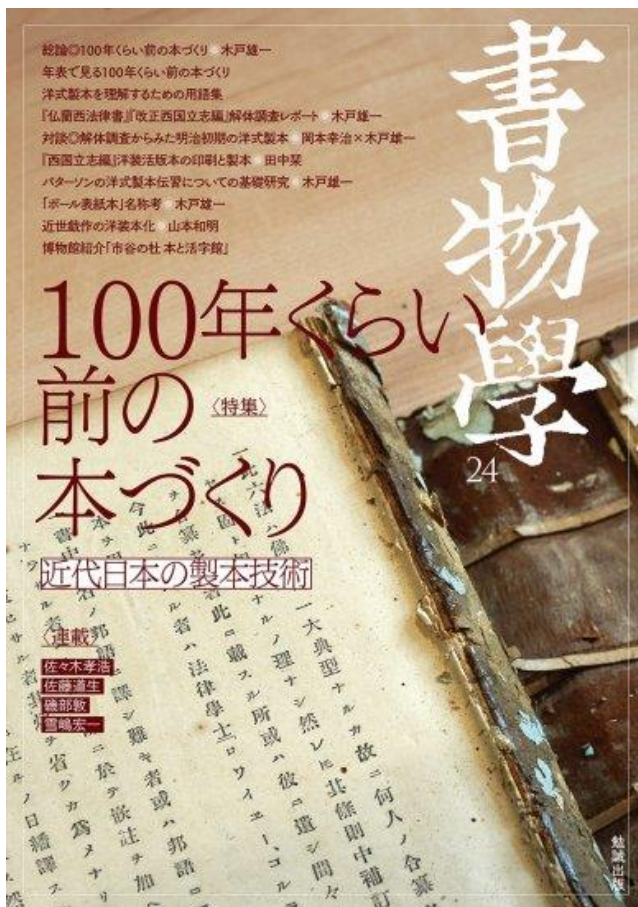
図書館のカビ被害について、頻繁に耳にするようになったのはいつ頃からだろうか。もちろんこれまでも、図書館とカビの問題は切っても切り離せないものだったが、この数年で特に重要なトピックとして顕著化しているように感じる。理由としては、気候変動による温湿度変化や、本書中でも書かれている、耐震工事による通気性の悪化や空調設備の老朽化に加え、コロナ禍での長期休館、職員のリモート出勤など複数挙げることができるだろう。

図書館の現場では、突発的に降りかかるカビ被害を前にして、専門知識もなく、準備もできていない中で、緊急の対応を余儀なくされるケースも多いのではないかと感じる。筆者も同様の状況に出会った一人である。その際に感じたのは、速やかに対処しなければいけない中で、効率的且つ効果的な対策を取る事の難しさであった。理想を言えば、必要な道具は全て揃え、自分たちで行える部分は行い、それ以上のことは専門業者に委託する、という事に尽きる。しかし、それぞれの図書館で事情は様々、できることもできないこともある、というのが実情だろう。

自館でいま何を行うことができるのか、作業時の安全対策は適切か、将来的な環境改善のためにどう準備しておくべきか、IPM メンテナンスへの理解をいかに周知していくか…。そんな課題に対し、平易なことばで書かれ、図版も多く読みやすい、知りたかったこと全般に触れられている、まさに「かゆいところに手が届く」この小冊子が大きな助けになるだろう。

かきはらなおこ
柿原直子(東京大学駒場図書館)

『100年くらい前の本づくり -近代日本の製本技術-』（書物学 第24巻）



- 発行:(株)勉誠社
- 2023.8
- 106, 12 頁
- ISBN:978-4-585-30723-5
- 2,000 円+税

●目次<特集>

総論◎100年くらい前の本づくり
 年表で見る100年くらい前の本づくり
 洋式製本を理解するための用語集
 「仏蘭西法律書」「改正西国立志編」解体調査レポート
 対談◎解体調査からみた明治初期の洋式製本
 「西国立志編」洋装活版本の印刷と製本
 パターソンの洋式製本伝習についての基礎研究—佐藤祐一著「明治初期政府印刷局における洋式製本技術の伝授と受容」概要
 「ボール表紙本」名称考
 近世戯作の洋装本化
 博物館紹介「市谷の杜 本と活字館」

参考 URL: 市谷の杜 本と活字館企画展
 「100年くらい前の本づくり」
<https://ichigaya-letterpress.jp/gallery/000237.html>

本特集は「市谷の杜 本と活字館」で2022年に開催された同名の企画展示を背景としている。この展示は明治期から昭和初期に日本で作られた本の構造や材料の分析を通じて、洋式製本の技術が国内に定着していく様子をたどっていく構成で、通常見ることができない本の内側の構造がその歴史的背景と共に示されていた。

本特集はその展示の再現にとどまらず、紙面上で更に発展させたものとなっている。特に明治初期洋装本の「解体調査レポート」は圧巻で、製本家の岡本幸治氏が解体された本の内側を丹念に観察してその構造を読み解いていく。同氏と木戸雄一大妻女子大学教授の対談が合わせて収録されており、同レポートを追って当時の製本技術と時代背景を知るための大変よい手助けとなっている。

開国から150年余り、近代日本はまだまだ遠い大昔ではなく「100年くらい前の本」を更に後代へ伝える使命を持った図書館は少なくない。目の前の「古い本」を形作る技術が近代日本でどのように発展し、どのような経緯を経てその本が自分たちの前に今あるのか、本特集をガイドとして理解を深めていきたい。

たつきじゆんこ
 田崎淳子(東京大学総合図書館)

資料保存委員会の動き

※例会の会場はいずれも日本図書館協会会議室

2024年1月例会

日時:2024年1月20日(水)

出席:10名(うちオンライン参加2名)

内容:資料保存セミナー準備検討/ネットワーク資料保存134号進捗報告・記事案検討/2024年全国図書館大会テーマ案検討/講師派遣事業進捗報告/動画作成企画

2024年2月例会

日時:2024年2月19日(月)

出席:9名

内容:資料保存セミナー開催報告/見学会・セミナー案検討/ネットワーク資料保存134号進捗報告・記事案検討/2024年全国図書館大会テーマ案検討/講師派遣事業開催報告/次期委員長発表

2024年3月例会

日時:2024年3月13日(水)

出席:9名(うちオンライン参加2名)

内容:セミナー案検討/見学会案検討/ネットワーク資料保存134号進捗報告・135号記事案検討/2024年全国図書館大会スケジュール確認・内容検討

・講師派遣事業

国立大学図書館協会東北地区協会職員研修
「これからも紙の本を守るために:大学図書館資料の修理と保存」

日時:2024年1月26日(金)13:30~17:00

場所:東北大学附属図書館(本館)

※講義部分のみオンライン配信あり

・資料保存セミナー

「明日からできる「資料保存の基礎技術」」

日時:2024年2月19日(月)13:00-17:00

場所:日本図書館協会2階研修室

参加者:実習付20名,聴講のみ5名

コラム 図書館が被災した時

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」におきまして被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

図書館が被災された際に有用なサイトをご案内いたします。

○日本図書館協会災害対策委員会
<https://www.jla.or.jp/committees/tabid/600/Default.aspx>
電子メール:saigai★jla.or.jp
(★を半角@に換えてください。)

○文化財防災センター
<https://ch-drm.nich.go.jp/>

○saveMLAK
<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>

○日本図書館協会資料保存委員会・被災資料救済・資料防災情報源
<https://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/597/Default.aspx>

ネットワーク資料保存 第134号 2024年3月

編集・発行:日本図書館協会 資料保存委員会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03-3523-0816 FAX03-3523-0841

URL

<https://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx>

文章・写真の無断転載はお断りいたします
